管理番号	004	協議会名	山寺観光資源等多言語化・インバウンド推進協議会

解説文一覧

NO.	スポット名（タイトル）	想定媒体
004-001	峯の浦遺跡 / 垂水不動尊	看板・web
004-002	峯の浦遺跡 / 垂水不動尊	web
004-003	宝珠山立石寺 / 性相院	看板・web
004-004	宝珠山立石寺 / 金乗院	看板・web
004-005	宝珠山立石寺 / 中性院	看板・web
004-006	宝珠山立石寺 / 華蔵院	看板・web
004-007	宝珠山立石寺 / 如法堂	web
004-008	宝珠山立石寺 / 大仏殿	web
004-009	宝珠山立石寺 / 獅子踊り（根本中堂）	web
004-010	宝珠山立石寺 / 根本中堂	web
004-011	宝珠山立石寺 / 夜行念仏（根本中堂前）	web
004-012	宝珠山立石寺 / 芭蕉句碑	web
004-013	宝珠山立石寺	web
004-014	宝珠山立石寺 / 姥堂	web
004-015	宝珠山立石寺 / せみ塚	web
004-016	宝珠山立石寺 / 開山堂	web
004-017	宝珠山立石寺 / 五大堂	web
004-018	宝珠山立石寺 / 弥陀洞	web
004-019	宝珠山立石寺 / 仁王門	web

004-020	宝珠山立石寺 / 胎内くぐり	web
004-021	宝珠山立石寺 / 東宮行啓記念殿	web
004-022	立谷川河川公園 / 二代目鍋太郎	看板
004-022	立谷川河川公園 / 二代目鍋太郎	web
004-023	宝珠山立石寺 / 山寺の四季（春）	web
004-024	宝珠山立石寺 / 山寺の四季（夏）	web
004-025	宝珠山立石寺 / 山寺の四季（秋）	web
004-026	宝珠山立石寺 / 山寺の四季（冬）	web
004-027	宝珠山立石寺 / 日枝神社	web

番号 NO：004-001

＜簡体字＞

峰之浦

一千多年来，佛教僧侣和山地苦行僧在名为“峰之浦”的地区冥想和修行。该地区的多个自然和历史宗教遗址由一条徒步路线串连起来，路线的一个起点位于千手院观音堂附近，另一个起点则在山寺灵园。

千手院观音堂供奉千手观音。从千手院观音堂出发，漫步穿过森林，即可抵达在 20 世纪初以前用于苦行的垂水遗址。遗址中有一块巨大的岩壁，岩壁中有一处空洞，洞内布满因水侵蚀而形成的蜂窝状凹陷。洞内矗立着古峰神社鸟居，还有一座供奉丰收之神稻荷神的小型神社。鸟居附近，岩壁朝悬崖一面的裂缝处伫立着一尊佛教之神“不动明王”的雕像。

再往前是城岩七岩，据说从远处看，七块巨大的岩石就像一座城堡的外墙。沿着小径继续前行，一片林中空地展现在眼前，周围环绕着多个特征各异的岩层。这里很有可能曾被用于举行特殊的宗教仪式。

山寺灵园一侧的徒步起点附近还有一片空地，原为峰之浦本院所在之处。昔时该寺院供奉阿弥陀佛，即无量光佛。虽然建筑已不复存在，但考古挖掘发现了寺庙的部分地基、可追溯至 14 世纪的手工艺品，以及绳纹时期（公元前 10,000 年–公元前 300 年）遗留下来的陶器。

番号 NO：004-001

<繁体字>

峯之浦

逾千年來，「峯之浦」一直是佛教僧侶和山岳苦行僧冥想和修行的場所，多處自然和歷史宗教遺址由一條步道串連起來。這條步道的其中一個入口位於千手院觀音堂附近，另個入口則位於山寺靈園。

千手院觀音堂供奉千手觀音。從千手院觀音堂出發，稍微走一小段路穿過森林，就會抵達垂水遺跡，在 20 世紀初以前，人們在此進行苦行修行。垂水遺跡有座巨大岩壁，其中一處空曠洞穴裡頭布滿因水侵蝕而成的蜂窩狀凹洞，還矗立著古峰神社的鳥居，以及一座稻荷神社。在崖側附近裂縫處供奉的則是不動明王。

沿著步道邁進，將會看到城岩七岩，據說從遠處看，七塊巨大岩石就像一座城堡的外牆。接著再往前走，一片林中空地映入眼簾，周圍有多個形狀獨特的奇岩怪石，被認為昔日很有可能用來舉行特殊的宗教儀式。

山寺靈園側的步道入口附近則有另片空地，原為峯之浦主寺的所在之處，過去供奉阿彌陀佛如來，即無量光佛。雖然建築已不復存在，但經過考古挖掘，找到了寺院的部分地基、可追溯至 14 世紀的文物，以及繩文時代（西元前 10,000 - 西元 300）遺留下來的陶器碎片。

番号 NO：004-001

＜日本語仮訳＞

峯の浦

1 千年以上にわたり、僧侶や苦行者が、峯の浦として知られる山寺の先で瞑想し、修行をしてきました。この自然の歴史的整地は散策路でつながっており、入口は千手院観音堂の境内近くと山寺霊園にあります。

千手院観音堂には、千手観世音菩薩が安置されています。千手院観音堂を出て森を少し歩くと、1900 年代初期まで苦行に使われていた垂水遺跡に着きます。この場所には、水の浸食によって形成された、蜂の巣状の穴がたくさんある巨大な岩壁があります。中には、古峯神社の鳥居と稲荷神社が立っています。崖の側面にある近くの割れ目には、不動明王が祀られています。

散策路をさらに進むと、城岩七岩と呼ばれる 7 つの岩が並んでおり、遠くから眺めると山城の様相をなすと言われています。城岩七岩の先では、特徴的な岩に囲まれた広場に出ます。この場所は、神道の特別な祭事に使われていたと考えられています。

山寺霊園の散策路の入口付近の別の広場には、峯の浦の本院跡があります。本院には阿弥陀如来が祀られていました。本院はすでになくなっていますが、遺跡発掘により本院建造物の基礎、14 世紀にまで遡る遺物、縄文時代（紀元前 10,000～300 年）の陶磁器の破片が見つかっています。

番号 NO：004-002

＜簡体字＞

峰之浦

一千多年来，佛教僧侣和山地苦行僧在名为“峰之浦”的地区冥想和修行。一条徒步路线串连起该地区的多个自然和历史宗教遗址，路线的两处起点分别位于千手院观音堂和山寺灵园。

千手院观音堂供奉千手观音。千手院观音堂是当地 33 座观音寺庙组成的参拜之路的第二站。游客可以进入正殿参拜观音菩萨，也可以向寺庙捐款行善。寺庙内的墙壁上展示着各种颜色的纸质神符（日文发音：ofuda）。参拜者会在这些纸条上写下心中所愿，然后将其挂在朝圣途中所经每一座寺庙的墙上。神符的颜色代表参拜者完成参拜之旅的次数；代表 10 次的金符十分罕见。

从这座寺庙出发，漫步穿过森林，即可抵达在 20 世纪初以前用于苦行的垂水遗址。遗址中有一块巨大的岩壁，岩壁内有一处空洞，洞内布满因水侵蚀而形成的蜂窝状凹陷。洞内矗立着古峰神社鸟居，还有一座供奉丰收之神稻荷神的小型神社。空洞之外的悬崖上，一棵参天雪杉旁有一处带栅门的裂缝。门后则伫立着佛教之神“不动明王”的雕像。

接下来的徒步路段杂草丛生，变得更难以穿行。沿途有名为“城岩七岩”的七块岩石，从远处看，这些岩石就像一座城堡的外墙，故得此名。从部分岩石旁望去，可将四周的山谷尽收眼底。

城岩七岩的下一站是一片林中空地，周围环绕着多个特征各异的岩层。这里可能曾是苦行僧用来举行仪式的地方。离空地不远处有一个小洞穴，其中有多座五轮塔（墓塔）。多年来，许多五轮塔被盗或遭到毁坏，数量大大减少。在保存至今的五轮塔中，有的可以追溯到镰仓时代 (1185–1333)。

山寺灵园一侧的徒步起点附近还有一片空地，曾是峰之浦本院所在之处，昔时该寺院供奉阿弥陀佛，即无量光佛。虽然建筑已不复存在，但对该遗址的考古挖掘发现了寺庙的部分地基、可追溯至 14 世纪的手工艺品，以及绳纹时期（公元前 10,000 年–公元前 300 年）遗留下来的陶器。

徒步路线的最后一段连通寺庙遗址与山寺灵园。这曾是通往峰之浦本院的主要路线，入口处有两座石雕，一座是牛头天王（长着牛头的守护神），另一座是千手观音的部众之一神母女天。山寺距离墓园仅数步之遥。

番号 NO：004-002

<繁体字>
峯之浦

逾千年來，「峯之浦」一直是佛教僧侶和山岳苦行僧冥想和修行的場所，多處自然和歷史宗教遺址由一條步道串連起來。這條步道的其中一個入口，位於千手院觀音堂附近，另個入口則位於山寺靈園。

千手院觀音堂供奉千手觀音。在當地 33 座觀音寺的朝聖路線中，千手院觀音堂是第二站，遊客可以進入正殿參拜菩薩，也能捐獻香油錢。寺院內的牆壁上裝飾著各種顏色的紙製神符（御札），參拜者會在上頭寫著心中所願，然後掛在參拜途中經過的每座寺院牆上。神符的顏色代表參拜者完成朝聖之旅的次數，其中金符代表完成 10 次朝聖之旅，十分罕見。

從這座寺院出發，稍微走一小段路穿過森林，就會抵達垂水遺跡，在 20 世紀初以前，人們在此進行苦行修行。垂水遺跡有座巨大岩壁，其中一處空曠洞穴裡頭布滿因水侵蝕而成的蜂窩狀凹洞，還矗立著古峰神社的鳥居，以及一座供奉豐收之神稻荷神的小型神社。在洞穴之外懸崖上的一道門後，可以看到一棵高聳的雪杉旁有一處岩石裂縫，其中供奉佛教中神明「不動明王」的雕像。

步道接下來的路段草木蔓生，較不方便通行。繼續前進將看到名為「城岩七岩」的七塊岩石，從遠處看就像城堡的外牆，因此得名。另外從部分的岩石間望去，可將四周的山谷景色盡收眼底。

經過城岩七岩之後，下一站是一片林中空地，周圍有多個形狀獨特的奇岩怪石，過去可能是苦行僧用來舉行儀式的地方。離空地不遠處則有座小洞穴，其中有多座「五輪塔」（石造墓碑）。過去五輪塔的數量更多，但是經過多年下來，許多被盜或遭到毀壞，數量大大減少。在保存至今的五輪塔中，有的是從鎌倉時代（西元 1185–1333）所留下。

山寺靈園側的步道入口附近則有另片空地，原為峯之浦主寺的所在之處，過去供奉阿彌陀佛如來，即無量光佛。雖然建築已不復存在，但經過考古挖掘，找到了寺院的部分地基、可追溯至 14 世紀的文物，以及繩文時代（西元前 10,000 - 西元前 300）遺留下來的陶器碎片。

步道的最後一段連接寺院遺跡與山寺靈園。這裡曾是通往峯之浦主寺的主要路線，入口處有兩座石雕，一座是牛頭天王（牛頭的守護之神），另一座是千手觀音的部眾之一神母女天。另從墓園再走一小段路便可抵達山寺。

番号 NO：004-002

＜日本語仮訳＞

峯の浦

1 千年以上にわたり、僧侶や苦行者が、峯の浦として知られる山寺の先で瞑想し、修行をしてきました。この自然の歴史的整地は散策路でつながっており、入口は千手院観音堂と山寺霊園にあります。

千手院観音堂は千手観世音菩薩を祀っています。千手院観音は、最上三十三観音第二番札所にあたります。ここを訪れた際は、本殿に入って参拝し、お賽銭を入れることができます。中の壁には、色とりどりのお札が飾られています。参拝者は、お札に願い事を書き、これを各寺の壁にかけていきます。お札の色は参拝者の巡礼回数を表しており、10 回以上の巡礼を意味する金色の絵馬は極めて稀です。

千手院を出て森を少し歩くと、1900 年代初期まで苦行に使用されていた垂水遺跡に着きます。この場所には、水の浸食によって形成された、蜂の巣状の穴がたくさんある巨大な岩壁があります。中には、古峯神社の鳥居と稲荷神社が立っています。空洞の先の崖側には、高くそびえる杉の木の隣に門のある割れ目があり、不動明王が中に安置されています。

散策路をさらに進むと、草木が生い茂っていて通るのがさらに難しくなっていきます。途中で、城岩七岩と呼ばれる大きな 7 つの岩が見えてきます。遠くから眺めると城の様相をなすことから、そう呼ばれています。その岩の上に立つと、周辺の渓谷を見渡すことができます。

城岩七岩の先は、数種類の特徴的な岩々のある広場へ続きます。この場所は、苦行者が儀式に使用していたと考えられています。広場を過ぎたところにある洞窟には、五輪塔がたくさんあります。以前は数がもっとありましたが、多くが長年かけて盗まれたり壊されたりしてしまいました。残っているものの中には、鎌倉時代（1185～1333 年）まで遡るものもあります。

峯の浦の本院跡は、山寺霊園の散策路の入口付近の別の広場にあります。本院には阿弥陀如来が祀られていました。本院はすでになくなっていますが、遺跡発掘により本院建造物の基礎、14 世紀にまで遡る遺物、縄文時代（紀元前 10,000～300 年）の陶磁器の破片が見つかっています。

散策路の最後の区間は、本院跡から始まり、山寺霊園まで続きます。これがかつての本院までの主な経路で、入り口には 2 基の石碑が立っています。1 つは牛頭天王で、もう 1 つは千手観音の仏の 1 人、神母女天です。山寺は、霊園から歩いてすぐのところにあります。

番号 NO：004-003

＜簡体字＞

性相院

江户时代 (1603–1867) 以前，僧侣们在建于宝珠山山坡上，由 12 座寺院组成的山寺中生活和修行。当中只有 4 座留存至今，性相院便是其一。这座寺庙供奉天佛阿弥陀佛和毘沙门天（佛教四大天王之一）。寺中阿弥陀佛的雕像据说是出自山寺创始人圆仁和尚 (794–864) 之手。毘沙门天雕像则是当时最著名的佛教雕塑家之一运庆 (1150–1223) 的作品。

这座寺庙还供奉着伊达政宗 (1567–1636) 的母亲义姬 (1548–1623) 的牌位。伊达政宗是一位强大的大名（日本封建时代的大领主），统治着日本东北地区的大片地区，並建立了附近的宫城县仙台市。

番号 NO：004-003

<繁体字>

性相院

江戸時代（西元 1603‐1867）以前，僧侶們在建於寶珠山山坡上，由 12 座寺院組成的山寺中生活和修行。當中只有 4 座留存至今，性相院便是其一。這座寺院供奉天佛阿彌陀佛如來、毗沙門天（佛教四大天王之一）。寺中阿彌陀佛的雕像據說出自建立山寺的圓仁和尚（西元 794‐864）之手，毗沙門天雕像則由運慶（西元 1150‐1223）製作，他是當時最著名的佛師（佛像雕塑師）之一。

性相院還供奉著伊達政宗（西元 1567‐1636）母親義姬（西元 1548–1623）的牌位。伊達政宗是一位手握大權的大名（日本封建時代的大領主），統治著日本東北大片領地，並建立了鄰近的宮城縣仙台市。

番号 NO：004-003

＜日本語仮訳＞

性相院

江戸時代（1603 年～1867 年)まで、僧侶たちは宝珠山の斜面に立つ山寺の 12 の寺院で生活し、修行を積んでいました。現存する寺院は 4 つがあり、性相院はその 1 つです。性相院では、天の仏である阿弥陀如来と、毘沙門天（仏教四天王の一尊）が祀られています。阿弥陀如来像は山寺を建立した僧侶、円仁（794 年～864 年）作と言われています。毘沙門天像は、当時最も名高い仏師の 1 人であった運慶（1150 年～1223 年)作です。

この寺院にはさらに、強い権力を持ち日本の東北地方の広い地域を支配した大名であり、近隣の宮城県仙台市を築いた伊達政宗（1567 年～1636 年）の母、義姫（1548 年～1623 年）の位牌も祀っています。

番号 NO：004-004

＜簡体字＞

金乘院

江户时代 (1603–1867) 以前，僧侣们在建于宝珠山山坡上，由 12 座寺院组成的山寺中生活和修行。当中只有 4 座留存至今，金乘院便是其一。金乘院现存的建筑可追溯至 1840 年，主要供奉儿童的守护神、也是众生的救世主——地藏菩萨。寺庙内祭坛上的雕像由地藏菩萨和分立于两侧的两名童子组成。地藏菩萨左侧的童子名为掌恶，他手持金刚杵——一种坚不可摧的神话棍棒，象征着战胜世俗欲望。地藏菩萨右侧的童子名为掌善，手持代表纯洁的白色莲花。祭坛周围的墙壁上装饰着许多小型地藏菩萨雕像。这些雕像被称为千体地藏（字面意思是“一千”，意为“无数”），负责守护安息在无名或无人照看的坟墓中所被遗忘的逝者。

番号 NO：004-004

<繁体字>

金乘院

江戸時代（西元 1603‐1867）以前，僧侶們在建於寶珠山山坡上，由 12 座寺院組成的山寺中生活和修行。當中只有 4 座留存至今，金乘院便是其一。金乘院現存的建築建於西元 1840 年，寺內主要供奉兒童的守護神，也是眾生的救世主「地藏菩薩」。祭壇上有地藏菩薩像，以及侍立兩側的兩名童子，左側童子名為「掌惡」，他手持金剛棒在神話中是堅不可摧的棍棒，象徵戰勝世俗欲望，右側的童子則名為「掌善」，手持代表純潔的白色蓮花。至於祭壇周圍的牆壁上，還放置許多小型地藏菩薩像，被稱為千體地藏（字面意思是「一千」，意為「無數」），守護著無名或無人照料的墳墓中，那些被遺忘的逝者們。

番号 NO：004-004

＜日本語仮訳＞

金乗院

江戸時代（1603 年～1867 年)まで、僧侶たちは宝珠山の斜面に立つ山寺の 12 の寺院で生活し、修行を積んでいました。現存する寺院は 4 つがあり、金乗院はその 1 つで、現在の建物は 1840 年に建立されたものです。金乗院は、子どもの守り神であり、生きとし生けるものの救い主である地蔵菩薩を祀っています。寺院内の祭壇に祀られた仏像は、2 人の子どもを両側に連れた神の姿を描いています。地蔵の左側の男児はじょうあくと呼ばれ、世俗的欲望に打ち勝つことを象徴する金剛杵（決して壊れない神聖な杵）を手にしています。右側の男児はじょうぜんと呼ばれ、純潔を表す蓮の花を手にしています。祭壇の周りの壁際には、数多くの小さな地蔵が祀られています。これらは千体地蔵 （文字通り、「千体の地蔵」）と呼ばれ、 無名の墓または世話をする人のいない墓に眠る、忘れられた亡き人々を見守っています。

番号 NO：004-005

＜簡体字＞

中性院

江户时代 (1603–1867) 以前，僧侣们在建于宝珠山山坡上，由 12 座寺院组成的山寺中生活和修行。当中只有 4 座留存至今，中性院便是其一。这座寺庙主要供奉天佛阿弥陀佛。阿弥陀佛的使命之一是引领死后的灵魂进入极乐净土。殿后设有出羽国（今山形县）前统治者户泽家的墓碑。寺庙对面矗立着山形藩的一代雄主——最上义光 (1546–1614) 的纪念碑。殿前有一尊盘腿成莲花坐式的阿罗汉宾头卢的雕像。信徒会抚摩雕像上与自己所患疾病对应的部位，希望得到宾头卢的保佑而获痊愈。

番号 NO：004-005

<繁体字>

中性院

江**戸時代**（西元 1603‐1867）以前，僧侶們在建於寶珠山山坡上，由 12 座寺院組成的山寺中生活和修行。當中只有 4 座留存至今，中性院便是其一。這座寺院主要供奉天佛阿彌陀佛如來，阿彌陀佛的使命之一是引領死後靈魂進入極樂淨土。佛堂的後方立有出羽國（現在的山形縣）過去統治者**戸澤家的墓碑**。寺院對面則矗立著山形藩一代雄主最上義光（西元 1546–1614）的紀念碑。佛堂前另有一尊賓頭盧羅漢像，這尊羅漢像盤起腿，呈蓮花坐式。信眾們會觸摸羅漢像與自己所患疾病對應的部位，希望得到賓頭盧的保佑，以求疾病痊癒。

番号 NO：004-005

＜日本語仮訳＞

中性院

江戸時代（1603 年～1867 年)まで、僧侶たちは宝珠山の斜面に立つ山寺の 12 の寺院で生活し、修行を積んでいました。現存する寺院は 4 つがあり、中性院はその 1 つです。中性院の御本尊は、阿弥陀如来です。阿弥陀如来の役割の 1 つは、亡き者の魂を極楽へ導くことです。堂の背後には、出羽国（現在の山形）の領主であった戸沢家の墓碑が立っています。寺院の向かい側には、山形藩の有力な大名であった最上義光（1546 年～1614 年）の碑が立っています。堂の前には、賓頭盧像があり、蓮華座で足を組んで座っています。病を負った信者は、病を治す賓頭盧のご利益にあずかれるよう願って、仏像の体の自分の患部と同じところを撫でます。

番号 NO：004-006

＜簡体字＞

华藏院

江户时代 (1603–1867) 以前，僧侣们在建于宝珠山山坡上，由 12 座寺院组成的山寺中生活和修行。当中只有 4 座留存至今，华藏院便是其一。这座寺庙供奉包括大慈大悲的观世音菩萨等多位神明。殿内祭坛上的观音像据称是由山寺创始人圆仁和尚 (794–864) 雕刻而成。寺庙外，一座高 2.5 米的三层宝塔矗立在附近岩壁上雕刻的凹室内。宝塔整体呈鲜明的朱红色，塔檐的木制部分饰有镀金花丝。这座建于 1519 年的宝塔在 1952 年被指定为日本重要文化财产。它是日本最小的三层宝塔，内有一尊阿弥陀佛雕像。

番号 NO：004-006

<繁体字>

華藏院

江戶時代（西元 1603‐1867）以前，僧侶們在建於寶珠山山坡上，由 12 座寺院組成的山寺中生活和修行。當中只有 4 座留存至今，華藏院便是其一。這座寺院供奉包括慈悲之佛觀世音菩薩在內的眾神。佛堂內祭壇上的觀音像，據說由建立山寺的圓仁和尚（西元 794‐864）所製。寺院外有一座高 2.5 公尺的三重塔，矗立在附近岩壁開鑿的凹室內，寶塔整體呈獨特的朱紅色，塔簷木造部分則飾有細緻的金箔圖案。這座三重塔建於西元 1519 年，於西元 1952 年獲指定為日本重要文化財。它是日本最小的三重塔，塔內供奉著一尊大日如來像。

番号 NO：004-006

＜日本語仮訳＞

華蔵院

江戸時代（1603 年～1867 年)まで、僧侶たちは宝珠山の斜面に立つ山寺の 12 の寺院で生活し、修行を積んでいました。現存する寺院は 4 つがあり、華蔵院はその 1 つです。華蔵院は、慈悲の仏である観音を含む、複数の神々を祀っています。堂内の祭壇に祀られている観音像は、山寺を建立した僧侶、円仁（794 年～864 年）作と言われています。寺院の外には、近くの岩肌に掘られた岩屋の中に、高さ 2.5 メートルの三重の塔があります。この塔は特徴的な朱色で塗られており、木製のひさしの軒は金箔を施した線条細工で飾られています。1519 年に建設されたこの建物は、1952 年に重要文化財に指定されました。この塔は、日本国内で最も小さい三重塔で、大日如来像が安置されています。

番号 NO：004-007

＜簡体字＞

如法堂（奥之院）

沿 1015 级阶梯拾级而上，便可抵达山寺寺庙群的顶端——奥之院。奥之院由右侧的如法堂和左侧的大佛殿两座建筑组成。

如法堂是修习佛教教义的殿堂，修行的僧人要在这里依照山寺创始人圆仁和尚 (794–864) 创立的方法抄写经文。这种方法极为费力：僧人使用艾蒿制成的毛笔和石墨逐字抄写《妙法莲华经》，每抄写一个字，他们就俯首跪拜，并背诵经文全文三遍。因此，抄完《妙法莲华经》的全部八卷可能需要长达四年的时间。在闰年的 11 月 28 日，抄写完毕的经文会作为进献给圆仁和尚的祭品而被收入纳经堂。

如法堂供奉着名留青史的释迦牟尼和多宝如来佛的雕像。据说，圆仁和尚于 838 年至 847 年在中国修行的九年间一直带着这两尊佛像。

番号 NO：004-007

<繁体字>

如法堂（奥之院）

沿 1,015 級階梯拾級而上，便可抵達位於山寺寺廟群頂端的奥之院。奥之院由右側的如法堂和左側的大佛殿兩座建築組成。

如法堂是學習佛教教義的佛堂，在此修行的僧侶會依照建立山寺的圓仁和尚（西元 794–864）創始，且非常耗費體力的方式抄寫經文。僧侶們使用大魁蒿製成的毛筆及墨汁逐字抄寫《妙法蓮華經》，每抄寫一個字，僧人就需俯首跪拜，並背誦經文全文三遍，因此要抄完全八卷的經文，最長需要四年時間。抄寫完畢的經文會在閏年的 11 月 28 日納於納經堂，藉此進獻給圓仁和尚。

如法堂內供奉著掌管無數寶藏和財富的多寶如來佛，以及名留青史的釋迦牟尼。據說圓仁和尚於西元 838 年至 847 年在中國修行時，九年間一直帶著這兩尊佛像隨行。

番号 NO：004-007

＜日本語仮訳＞

如法堂（奥之院）

山寺の境内の頂上までの 1,015 段の道のりは、奥之院で終わります。奥之院は、右側の如法堂と左側の大仏殿の、2 つの建物で構成されています。

如法堂は、仏の教えの堂です。修行中の僧侶はここで、山寺を建立した僧侶、円仁（794 年～864 年）が始めた、非常に労力を必要とする写経方法を実践します。修行僧は大ヨモギの筆と石墨を使い、法華経を 1 文字ずつ写します。1 文字写すごとに、ひれ伏して経の全文を 3 回暗唱します。このため、法華経 8 巻全てを写すのに 4 年かかることもあります。写し終えた経は、うるう年の 11 月 28 日に円仁への捧げものとして、納経堂に納められます。

如法堂には歴史的な仏である釈迦牟尼と、豊富な宝の仏である多宝如来の像が祀られています。これらの像は、開山・慈覚大師が中国で修行中に持ち歩いたと言われています。

番号 NO：004-008

＜簡体字＞

大佛殿（奥之院）

沿 1015 级阶梯拾级而上，便可抵达山寺寺庙群的顶端——奥之院。据说，这段通往奥之院的旅程能征服所有人的世俗欲望。

奥之院由右侧的如法堂和左侧的大佛殿两座建筑组成。大佛殿内有一尊周身以金箔覆盖的 4.8 米高天佛阿弥陀佛坐像。

番号 NO：004-008

<繁体字>

大佛殿（奥之院）

沿 1,015 級階梯拾級而上，便可抵達位於山寺寺院群頂端的奥之院。據說，這段通往奥之院的路程能讓參訪者克服世俗欲望。

奥之院由右側的如法堂和左側的大佛殿兩座建築組成，大佛殿內有一尊全身覆蓋著一層金箔的 4.8 公尺高天佛阿彌陀佛如來坐像。

番号 NO：004-008

＜日本語仮訳＞

大仏殿（奥之院）

山寺の境内の頂上までの 1,015 段の道のりは、奥之院で終わります。奥之院へたどり着いた者は、世俗的欲望を克服できると言われています。

奥之院は、右側の如法堂と左側の大仏殿の、2 つの建物で構成されています。大仏殿には、金箔に包まれた 4.8 メートルの阿弥陀如来の座像が安置されています。

番号 NO：004-009

＜簡体字＞

狮子踊

磐司祭于夏季的 8 月初举行，是山寺每年最盛大的活动之一，以纪念传奇猎人磐司磐三郎（生卒年不详）的丰功伟绩。磐司是宝珠山的守卫者，于山寺的建立扮演着重要角色。据传说，磐司在宝珠山山脚下一块名为“对面岩”（意为“会面石”）的大岩石上与圆仁和尚 (794–864) 相，圆仁和尚谈到他想在日本北部建立一个传播佛陀教义的地方。磐司被圆仁和尚的抱负深深打动，便捐出了土地，并放弃在当地狩猎。山上的动物们听到这个消息后，聚集在对面岩前高兴地跳舞。

人们根据这则传说创作了“狮子踊”（狮子舞），这是磐司祭的主要活动之一。磐司祭的参与者聚集在对面岩旁的对面堂神社，神社内供奉着磐司和圆仁和尚的雕像。活动开始后，盛装打扮的当地演出团伴着传统音乐跳起充满活力的舞蹈。他们排成一队前往山寺的上端，途中会在根本中堂主殿和纪念山寺创始人的开山堂停下来表演。

番号 NO：004-009

<繁体字>

獅子踊

磐司祭是山寺每年最盛大的活動之一，這場夏日祭典於 8 月初舉行，用於紀念傳奇獵人磐司磐三郎（生卒年不詳）的豐功偉績。磐司是管轄寶珠山的獵人，他在建立山寺時扮演著重要角色。據說，磐司在寶珠山山腳下一塊名為「對面岩」（意為「會面石」）的巨石所在處，與圓仁和尚（西元 794–864）會面，圓仁和尚在此談到他想在日本的北部，建立一個傳播佛教教義的地方。於是磐司被圓仁和尚的抱負深深打動，捐出了土地並放棄在當地狩獵。山上的動物們聽到這個消息後，聚集在對面岩前快樂地跳起舞來。

人們根據這則傳說創作了「獅子踊」（獅子舞），這種舞蹈也成為磐司祭的主要活動之一。磐司祭的參與者會聚集在對面岩旁的對面堂，此處供奉著磐司和圓仁和尚的雕像。在活動進行時，當地的舞蹈團會盛裝打扮，隨著傳統音樂跳起充滿活力的舞蹈，並且列隊前往山寺頂端，途中會停在根本中堂主殿，以及紀念山寺建立者的開山堂表演。

番号 NO：004-009

＜日本語仮訳＞

獅子踊り

磐司祭は、山寺の最大の年間イベントの 1 つです。この夏祭りは 8 月初頭に、伝説的狩人磐司磐三郎（生没年不詳）の功績を讃えるため開催されます。磐司磐三郎は山の番人で、寺の建立の際に重要な役割を果たした人物です。伝説では、 磐司は宝珠山のふもとにある大きな岩、対面岩（対面する岩）の上で円仁（794 年～864 年）に出会ったと言われています。円仁はここで、北日本に仏の教えを広めるための場所を築くという彼の目標を語りました。円仁の目標に強く心動かされた磐司は、円仁に土地を寄付し、この辺りでの狩りを止めました。これを聞いた山の動物たちは、対面岩の前に集まり、喜びの踊りを踊りました。

この伝説は、磐司祭のメインイベントの 1 つである獅子踊りの元となっています。参加者たちは、対面岩の隣にあり、円仁と磐司の像が安置されている対面堂の前に集まります。地元の団体の人々が、伝統音楽に合わせて生き生きとした踊りを披露します。行列を成して山寺の上層部へ進み、根本中堂（本堂）と山寺の創設者へささげて建てられた開山堂へと進みます。

番号 NO：004-010

＜簡体字＞

根本中堂

几个世纪以来，一盏不灭的法灯始终温和地照亮着山寺本堂根本中堂的内殿。根本中堂位于宝珠山脚下，是游客朝着寺庙群顶部攀登时最先看到的建筑物。山寺是跨越京都府和滋贺县的比睿山天台宗总本山延历寺的分院。根本中堂供奉着大医王药师如来。

根本中堂是山寺最古老的建筑之一，已被指定为日本重要文化财产，最初由圆仁和尚 (794–864) 在创立山寺后于 860 年修建。1356 年，山形城第一代城主斯波兼赖 (1329–1379) 重建了主体结构。重建后的根本中堂据说是日本年代最悠久的山毛榉木建筑。这座单层殿堂的屋顶为宽阔的歇山顶（日语称"入母屋造"），这种屋顶样式起源于中国，常见于佛教建筑。

根本中堂神圣的内殿向公众开放，内殿中央的双门神龛（日语称"厨子"）内供奉着一尊木制药师如来像。这尊雕像可能是由圆仁和尚雕刻而成，每 50 年才向公众展示一次。神龛两侧分别是日光菩萨和月光菩萨像，周围环绕着守护药师如来的十二神将像。

神龛前燃烧着的，便是被称为"不灭法灯"的佛教圣灯。为纪念山寺建立，圆仁和尚从延历寺带来了这盏灯。数世纪以来，山寺和延历寺的灯都在不同时间熄灭过。但是，每当其中一盏法灯熄灭时，僧人就会用另一盏法灯将其重新点燃。通过两座寺庙的合力传承，同一团圣火已经燃烧了 1200 多年。

内殿右上角供奉着一尊智慧之佛文殊菩萨像。这尊雕像原本放在名为文殊堂的专用殿堂内，在一场火灾后被转移到根本中堂。四大天王之一的勇猛战神——毘沙门天的雕像则立于左侧角落。

番号 NO：004-010

<繁体字>

根本中堂

幾個世紀以來，不滅的法燈始終溫和地照亮著山寺本堂「根本中堂」內殿。根本中堂位於寶珠山腳下，是遊客前往寺院群頂端時最先看到的建築物。山寺是延曆寺的分院，延曆寺則是天台宗總本山（本山：為該宗派的大本營或根據地），位於跨越京都府和滋賀縣的比睿山。根本中堂供奉著大醫王佛藥師如來。

根本中堂是山寺中最古老的建築之一，已被指定為日本重要文化財，原先由圓仁和尚（西元 794 - 864）在建立山寺後，於西元 860 年修建。到了西元 1356 年，山形城第一代城主斯波兼賴（西元 1329 - 1379）重建了寺院的主體結構。重建後的根本中堂據傳是日本最早的山毛櫸木建築，這座單層殿堂的屋頂為寬闊的「入母屋造」，即樣式源於中國的歇山頂，常見於佛教建築。

根本中堂的內殿一般對外開放，中央的雙門神龕上供奉著一尊木造藥師如來像。這尊雕像據說由圓仁和尚親手雕刻，每 50 年才對外展示一次。至於神龕兩側則分別是日光菩薩和月光菩薩像，周圍環繞著守護藥師如來的十二藥叉大將像。

神龕前亮著被稱作「不滅法燈」的佛教聖燈。為紀念山寺建立，圓仁和尚從延曆寺將這盞聖燈帶至此處。數世紀以來，山寺和延曆寺的燈火曾在不同時間熄滅，但每當一座寺院的燈火熄滅，僧人就會用另一座寺院的燈火將其重新點燃。在兩座寺院的合力傳承下，聖火已經燃燒了 1,200 多年。

內殿右上角供奉著一尊智慧之佛文殊菩薩像。原本放在名為「文殊堂」的專用殿堂內，在一場火災後被轉移到根本中堂。左側角落則立有四大天王之一的重要的武神，多聞天王（毘沙門天），的雕像。

番号 NO：004-010

＜日本語仮訳＞

根本中堂

不滅の法灯が、何世紀にもわたって、山寺の総本堂である根本中堂の内陣を優しく照らしてきました。総本堂は宝珠山の麓にあり、山寺へ登る際、最初に目にする建物です。山寺は、京都と滋賀にまたがる比叡山の天台宗総本山、延暦寺の分院です。根本中堂には、癒しの仏陀・薬師如来が安置されています。

根本中堂は山寺の中でも最も古い建物の 1 つで、重要文化財に指定されています。山寺の創建後、慈覚大師円仁（794～864 年）により 860 年に創建されました。本堂は、1356 年に、初代山形城・主斯波兼頼（しばかねより）（1329～1379 年）により再建されました。そのため、日本最古のブナの建造物といわれています。平屋の本堂の屋根は、大きな入母屋造りでできています。入母屋造りは中国から伝来した様式で、仏教建築によく見られるものです。

根本中堂の内陣は一般に公開されています。木造薬師如来立像が内陣中央の厨子（ずし）に安置されています。円仁自らが彫ったとされるこの薬師如来立像は、50 年に 1 度しか一般公開されません。日光菩薩と月光菩薩が厨子の脇に立ち、その周りを十二神将が囲んで薬師如来を護っています。

厨子の前では不滅の法灯が燃えています。慈覚大師円仁は、この聖なる炎を延暦寺から運び、山寺の創建を記念しました。数世紀にわたり、山寺と延暦寺の炎はそれぞれ異なる時期に燃え尽きているものの、一方の炎が消える度に、もう一方の炎で再び灯が灯されてきました。以来、1,200 年以上にわたって、両寺の炎は絶えず燃えています。

内陣の右隅には、知恵の文殊菩薩立像が安置されています。かつては文殊堂という専用の建物がありましたが、火事の後は根本中堂に移設されました。毘沙門天立像は四天王の一尊に数えられる武神で、左隅に立っています。

番号 NO：004-011

＜簡体字＞

夜行念佛

在石灯笼柔和的灯光下，信徒们一边前往山寺奥之院，一边有节奏地诵经，进行名为“夜行念佛”的夜间参拜活动。这场神圣的佛事从 8 月 6 日开始，届时，参与者会在山寺本堂根本中堂前集合祷告。当夕阳西下，参拜队伍开始向山上行进，他们会在途经的每座寺庙前停留并诵读念佛，向天佛阿弥陀佛祈祷。到达山寺奥之院后，信徒们会祈祷并休息一夜。

信徒们在次日清晨 5 点起床，然后动身前往供奉山寺创始人圆仁和尚 (794–864) 的开山堂，以及在悬崖边供奉佛教五大明王的五大堂。最後他们会从五大堂返程下山。

夜行念佛已被指定为日本无形民俗文化财产，不对公众开放。

番号 NO：004-011

<繁体字>

夜行念佛

在石燈籠柔和的燈光照亮下，信徒們在前往山寺奥之院的途中有節奏地誦經，進行名為「夜行念佛」的夜間參拜活動。這場神聖的佛教儀式從 8 月 6 日開始，參與者屆時會一邊念佛，一邊集合至山寺本堂的根本中堂前。到了日落時分，參拜隊伍開始向山上前進，並在途經的每座寺院前停留、念佛，以向天佛阿彌陀佛如來祈願。抵達山寺奥之院後，信徒們會繼續念佛且休息一夜。

次日信徒們會於清晨 5 點起床，然後動身前往供奉山寺建立者圓仁和尚（西元 794–864）的開山堂與五大堂（位於懸崖邊，供奉佛教五大明王）。隨後他們便會下山，結束參拜之行。

夜行念佛已獲指定為日本無形民俗文化財。這項儀式並無對外開放。

番号 NO：004-011

＜日本語仮訳＞

夜行念仏

夜行念仏（夜間の遍路）では、石灯籠の柔らかな灯りに照らされた信者達が、リズミカルに詠唱しながら山寺の内宮へと向かいます。この仏教の神聖な儀式は、8 月 6 日に参加者が祈りを唱えながら、山寺の本堂である根本中堂前に集まると始まります。日没と共に、行列は山へ向かい、途中にある寺の建物の 1 つ 1 つで止まり、天の仏阿弥陀如来に捧げる祈りである念仏を唱えます。山寺の内宮である奥の院に到着すると、信者達は祈りを捧げ、一晩休みます。

信者達は、翌朝午前 5 時に起床します。行列は山寺を建立した円仁（794 年～864 年)を祀る開山堂と、五大堂（五大明王を祀った、断崖に建つ堂）を目指します。そこから、行列は山を下ります。

夜行念仏は、無形民俗文化財として登録されています。一般公開はされていません。

番号 NO：004-012

＜簡体字＞

芭蕉俳句碑

1689 年，喜爱旅行的俳句诗人松尾芭蕉 (1644–1694) 从江户（今东京）出发，开始了为期 156 天的旅程，途经日本东北地区和北陆地区。松尾芭蕉与他的弟子河合曾良 (1649–1710) 一起步行完成了大部分路程。两人追随芭蕉敬仰的诗人西行 (1118–1190) 的足迹，游历了许多因古诗而闻名的地方。芭蕉以这段旅程为题材，创作了诗歌和散文游记《奥之细道》（深入北方的小路）。

芭蕉和曾良于 7 月 13 日到访山寺，不过这座依山而建的寺庙并非他们计划中的目的地。他们在山寺附近的尾花泽市下榻时，当地居民建议他们去山寺游览。看到美丽宁静的寺庙建筑群，芭蕉灵感迸发，创作出俳句《蝉》：

万籁俱寂，蝉声渗石

这首俳句被雕刻在一块石碑（日语称"句碑"）上，与芭蕉和曾良的雕像同立于山寺入口附近。在通往山寺上端的途中，还有一块名为蝉冢的石碑，纪念芭蕉的俳句《蝉》。

《奥之细道》是芭蕉的最后一部，也是他最受欢迎的作品。俳句《蝉》则是他最著名的诗歌之一，日本各地学校都会教授这首诗。从山寺站步行就可抵达山寺芭蕉纪念馆，人们可以在这里了解芭蕉的生平与作品。

番号 NO：004-012

<繁体字>

芭蕉俳句碑

西元 1689 年，旅遊俳句詩人松尾芭蕉（西元 1644-1694）從江戶（現在的東京）出發，在日本東北和北陸地區展開 156 天的旅程。松尾芭蕉與他的弟子河合曾良（西元 1649–1710）一起步行走完了大部分路程。當時芭蕉因為敬仰詩人西行（西元 1118-1190），兩人照他足跡遊歷了許多因古詩中描繪而出名的地點。芭蕉之後以這段旅程為題材，創作出包含詩歌和散文的遊記《奧之細道》（深入北方的狹窄道路）。

芭蕉和曾良在山寺附近的尾花澤市下榻，原先並未計畫前往依山而建的山寺，但在當地居民的推薦下，他們才在 7 月 13 日到訪。看到莊嚴美麗、寧靜祥和的寺院建築群後，芭蕉為之觸動，因而創作出俳句《蟬》：

山林幽靜，蟬聲滲入岩石裡

俳句雕刻在一塊石碑（「句碑」）上，這座石碑與芭蕉和曾良的雕像一同立於山寺入口附近。在通往山寺頂端的路上，還有另塊名為「蟬塚」的石碑，用於紀念芭蕉的俳句《蟬》。

《奧之細道》是芭蕉的最後一部，也是他最受歡迎的作品。俳句《蟬》則是他最著名的詩歌之一，日本各地的學校都會教授這首詩。從山寺站步行一小段距離，即可抵達山寺芭蕉紀念館，透過參觀館內的展品，可以了解芭蕉的生平與作品。

番号 NO：004-012

＜日本語仮訳＞

芭蕉句碑

旅する俳人、松尾芭蕉（1644～1694 年）は 1689 年、江戸（現在の東京） から日本の北東北・北陸地方までを 156 日間の旅をしました。芭蕉は、弟子の河合曽良 （1649～1710 年) とともに、ほとんどの道のりを歩いて旅しました。2 人は、芭蕉がとても尊敬していた詩人、西行（1118 年～1190 年)の足跡をたどり、古い詩で有名になった数々の場所を訪れました。2 人の旅は、芭蕉の詩と散文による旅行記「おくのほそ道」（北の奥地へのほそい道）の題材となりました。

芭蕉と曾良は、予定には含まれていなかったこの山中の寺を、7 月 13 日に訪れました。これは、滞在していた近くの町、尾花沢の住人の勧めにしたがったものでした。境内の美しさと静けさに触発されて、芭蕉は蝉の句を詠みました。

閑さや　　Such stillness―（なんという閑さか）
岩にしみ入る　The cries of the cicadas（蝉の声が）
蝉の声　　Sinks into the rocks（岩にしみ入っていく）

(ドナルド・キーン訳)

この俳句が刻まれた句碑が、芭蕉と曾良の像と並んで、山寺の入り口近くに置かれています。山寺の上流部の道には、せみ塚という別の碑があります。

『おくのほそ道』は、芭蕉の最後の作品で、最も知られているものです。蝉の俳句は、芭蕉の最も有名な詩で、全国の学校で教えられています。山寺駅から歩いてすぐの場所にある山寺芭蕉記念館では、芭蕉の人生や作品に関する展示を見ることができます。

番号 NO：004-013

＜簡体字＞

宝珠山立石寺

走完一千多级台阶，便可抵达寺庙群立石寺（又称山寺）的最顶端。寺庙群位于山形县境内，建于神圣的宝珠山上，周围草木丛生。登上顶端再返回山脚象征着轮回，即佛教中的重生。通过位于寺院主入口处的山门，便代表逐渐进入“来世”。随着不断向上攀登，游客也得到净化。在顶端冥想和祈祷之后，他们开始下山，并在佛教教义的洗礼中获得重生。

僧侣圆仁 (794–864) 奉天皇命令前往日本北部边境传播佛教，于 860 年在途中创立了立石寺。立石寺是天台宗总本山延历寺的分院，延历寺位于跨越京都府和滋贺县的灵山比睿山。而天台宗是从中国传入日本的一种佛教宗派，圆仁是其第三任座主。

宝珠山麓

寺庙群的入口距离山寺站仅数步之遥，沿途有几间商店和餐馆。当游客抵达山寺，首先映入眼帘的是山寺本堂根本中堂。殿内供奉着可能是由圆仁和尚亲手雕刻而成的大医王佛药师如来像。根本中堂内还有一团由圆仁从延历寺带到此处的圣火，被称为“不灭法灯”。数百年间，每当一座寺庙的灯火熄灭，僧人就会用另一座寺庙的灯火将其重新点燃。通过这种延续，两座寺庙共享的同一团圣火已经燃烧了 1200 多年。

经过根本中堂后，游客会看到著名诗人松尾芭蕉 (1644–1694) 的雕像，及雕刻着他的著名俳句《蝉》的石碑。在山寺游历时，芭蕉受到寺庙庄严宁静气质的触动，创作出这首俳句，并将其收入著名的诗歌和散文集《奥之细道》（深入北方的小路）。在从江户（今东京）途经本州岛北部的旅程中，芭蕉徒步走完大部分行程，这部闻名遐迩的《奥之细道》便是这段旅程的游记。在山中更高处，还有一块名为蝉冢的石碑，纪念芭蕉的俳句《蝉》。

经过宝物殿、念佛堂和日枝神社后，游客便会来到山门所在地，正式开启轮回和登山之旅。

登山

沿着一条蜿蜒小路，跟随两旁的石灯笼穿过一座座雕像和一棵棵参天大树，便会到达象征天国与地狱交界的姥堂。姥堂内部有一座引人注目的雕像——夺衣婆，在亡灵跨过分隔阴阳两界的三途川前，这位可怕的老妇人会剥去他们的衣服。根据传统，信徒们会在姥堂清洁自己，然后将自己的衣服献给夺衣婆，并在继续登山之前换上新装。这种做法象征着摆脱世俗的罪孽和欲望。

再往山上走，靠近蝉冢碑处有一堵饱经风霜的岩壁，名叫弥陀洞。随着时间的推移，风雨不断改变这块岩壁的形态，呈现的样貌使人不禁想起天佛阿弥陀佛。据说能发现这种关联的游客会得到阿弥陀佛的庇佑。

仁王门标志着登山的中点。金刚力士像矗立在门后道路的两侧，以驱邪防魔。越过仁王门后，游客可以游览四座寺庙建筑：性相院、金乘院、中性院和华藏院。

转世

经过这四所寺庙，游客随即来到象征天国的立石寺上端。游客可以在此处冥想佛教教义，为转世做准备。道路在此分岔，其中一条岔路通向寺庙群最深处的建筑——组成奥之院的如法堂和大佛殿。如法堂供奉着名留青史的释迦牟尼像和多宝如来佛像。据说这两座雕像是圆仁和尚在中国修习佛教后从中国带回日本的。与如法堂相邻的大佛殿内有一座高 4.8 米的阿弥陀佛金像。

另一条岔路通往纪念寺庙创始人圆仁和尚的开山堂。开山堂里面尊奉着圆仁和尚的木制雕像，僧侣们每天早晚都会向雕像供奉食物。附近的悬崖上有一块突出的岩石，上面坐落着一座红色小楼——纳经堂，用于存放僧侣在修行时抄写的经文。登上一段狭窄的阶梯，便会来到建于开山堂顶部悬崖边的五大堂。从这里望去，可将寺庙群和四周的山谷尽收眼底。

番号 NO：004-013

<繁体字>

寶珠山立石寺

在走完一千多級石階後，便會抵達寺院群立石寺（又稱山寺）的頂端。山寺位於山形縣境內，建於神聖且青蔥翠鬱的寶珠山山坡上。登上最頂端再返回山腳代表「輪迴」，也就是佛教中所說的重生。通過位於寺院主入口處的山門後，便代表逐漸進入「來世」。隨著不斷向上攀登，遊客的心靈也得到淨化，於最頂端冥想和祈願之後下山，然後經過佛教教義的洗禮後獲得重生。

圓仁和尚（西元 794–864）奉天皇之令，前往日本北部邊境傳播佛教，西元 860 年時，他在此行途中建立了立石寺。立石寺是延曆寺的分院，延曆寺則是天台宗總本山，位於跨越京都府和滋賀縣的比睿山。至於天台宗則是從中國傳入日本的一種佛教宗派，圓仁正是其第三代座主。

寶珠山麓

寺院群的入口距離山寺車站僅一小段路程，沿途有幾間商店和餐廳。抵達山寺後，首先映入眼簾的是山寺的本堂「根本中堂」，當中供奉著可能是由圓仁和尚親手雕刻的大醫王佛藥師如來像。根本中堂內的「不滅法燈」則為圓仁和尚從延曆寺帶到此處的聖火。數百年間，每當一座寺院的燈火熄滅，僧人就會用另一座寺廟的燈火將其重新點燃。透過這種延續，兩座寺院共同守護的聖火已經燃燒了 1,200 多年。

經過根本中堂後，會看到知名詩人松尾芭蕉（西元 1644 - 1694）的雕像，以及刻有其著名俳句《蟬》的石碑。芭蕉在山寺遊歷時，看到莊嚴寧靜的寺院之後深受啟發，因而創作出這首俳句，並將其收入著名的詩歌和散文集《奧之細道》（深入北方的狹窄道路）。在從江戶（現在的東京）前往本州島北部的旅程中，芭蕉徒步走完大部分路程，而這部聞名遐邇的《奧之細道》便是記載這段旅程的遊記。在山的更高處，還有一塊名為「蟬塚」的石碑，用於紀念芭蕉的俳句《蟬》。

經過寶物殿、念佛堂和日枝神社後，遊客便來到山門的所在地，可從此處展開輪迴和登山之旅。

登山

沿著一條兩旁裝飾石燈籠的蜿蜒小路前行，穿過一座座雕像和一棵棵高聳的大樹後，便會抵達象徵天界與地獄交界的「姥堂」。姥堂內有一座引人注目的奪衣婆像，她被描述為一位令人心生畏懼的老婦人，會在亡靈跨過三途川以前，也就是在生前與死後世界相隔之處剝去他們的衣服。根據傳統，信徒們會在姥堂淨化身心靈，然後將自己的衣服獻給奪衣婆，並在繼續登山之行前換上新裝，代表擺脫世俗罪孽和欲望。

再往山上走，靠近蟬塚紀念碑處有一座久經風雨侵蝕的岩壁，名叫彌陀洞。由於長期以來在大自然的雕刻下，呈現的樣貌讓人不禁聯想到天佛阿彌陀佛如來。據說若能看出兩者間的相似性，就會得到阿彌陀佛如來的加持。

仁王門代表前往山上路線的中點，在通往門後道路的兩側矗立著仁王像，用以驅邪防魔。通過仁王門後，可以遊覽性相院、金乘院、中性院和華藏院等四座寺院建築。

轉世

經過這四座寺廟，隨即來到象徵天界的立石寺頂端。遊客可以在此處冥想佛教教義，為轉世做準備。道路在此一分為二，其中一條岔路通往寺廟群最深處的建築，即合稱奧之院的如法堂和大佛殿。如法堂供奉著多寶如來佛和名留青史的釋迦牟尼。據說圓仁和尚在中國求法後，將這兩座雕像由中國帶回日本。與如法堂相鄰的大佛殿內有一座高 4.8 公尺的阿彌陀佛如來金佛像。

另一條岔路通往供奉著寺院建造者圓仁和尚的開山堂。寺內有一尊圓仁和尚的木造雕像，僧侶們每天早晚都會向雕像供奉食物。附近有一處露頭（地球表面突出可見的岩床），上方坐落著一小棟紅色的建築物，這裡是「納經堂」，用於存放僧侶在修行時抄寫的經文。登上一段狹窄的階梯，就會抵達建於開山堂之上，坐落於懸崖邊的五大堂。從這裡望去，寺廟群和下方山谷美景一覽無遺。

番号 NO：004-013

＜日本語仮訳＞

宝珠山立石寺

1 千段以上の階段を上ると、山の中にある複数の御堂の集合体で、山寺として知られる立石寺の最上部に到着します。山形県の神聖な宝珠山の森の傾斜部に建立されており、ここまでの往復路はサムサラ（永遠の再生；輪廻）の追体験となります。寺の境内正門に位置する山門で、訪れた人々は徐々に「来世」に入ります。山を登りながら、参拝者は清められていきます。上で瞑想と祈願を終えると、参拝者は下山を始め、仏陀の教えと共に新たに生まれます。

慈覚大師円仁（794～864 年）は、天皇の命により仏教を広めるため、北部日本の辺境を旅しながら、860 年に立石寺を創建しました。立石寺は、京都と滋賀にまたがる比叡山の天台宗総本山、延暦寺の分院です。慈覚大師円仁は、中国から日本へ伝来した天台宗の第 3 代天台座主でした。

宝珠山麓

立石寺への入り口は、山寺駅から店舗や食事処を数軒通り過ぎて少し歩いたところにあります。山寺の総本堂である根本中堂は、訪れた際に最初に到着する建物です。ここには医薬の仏である薬師如来立像が安置されており、慈覚大師円仁が自らこれを彫ったとされています。根本中堂には、慈覚大師円仁が延暦寺から持ってきた法灯もあります。数世紀にわたり、いずれかの寺の炎が消えると、もう一方の寺の炎で再び灯されてきました。このようにして、不滅の法灯は 1,200 年以上にわたって燃え続けています。

根本中堂を過ぎると、俳諧師・松尾芭蕉（1644～1694 年）の像と、芭蕉の有名な蝉の俳句が彫られた俳句碑があります。芭蕉は、立石寺の荘厳な閑さに触発され、山寺を訪れた際に蝉の俳句を詠みました。蝉の俳句は、有名な俳諧『おくのほそ道』に含まれています。この有名な作品は、江戸（現在の東京）から東北地方までをほとんど徒歩で旅した芭蕉の紀行です。芭蕉の蝉の俳句のもう 1 つの記念碑であるせみ塚は、山のさらに奥にあります。

山を登り、サムサラを通る旅路は、宝物殿、念仏堂、日枝神社を通った後の山門から始まります。

宝珠山を登る

提灯が並ぶ道を進み、各種像やそびえ立つ木々を過ぎた先にある姥堂は、そこから上の極楽とそこから下の地獄の境にある象徴的な門です。姥堂には、生前の世界と死後の世界を隔てる三途の川の河原で死人の服をはぎ取る怖い老婆・奪衣婆の色鮮やかな像が納められています。姥堂ではかつて、参拝者たちが心身を清め、

奪衣婆に自らの着物を奉納し、登山を続ける前に新しい着物に着替えていました。これは、参拝者の世俗的欲望や汚れを流すという象徴的な習慣でした。

さらに登ると、せみ塚の石碑の近くに弥陀洞と呼ばれる風雨に削られた岩壁があります。時がたつにつれ、この岩は自然に削られていき、阿弥陀如来を彷彿させる岩と化しました。阿弥陀如来の姿に見える人には、ご利益があると言われています。

仁王門は、山の中間地点を示しています。金剛力士像が建物の両脇に建ち、悪いものが入らないようにしています。その先には、性相院、金乗院、中性院、華蔵院という４つの寺があります。

転生
立石寺の上流部はこれら４つの寺院を過ぎた場所にあり、極楽を表しています。ここでは、教えの実践者が転生に備えて仏教の教えについて瞑想します。この遊歩道は分岐していて、うち１つは、最も奥にある奥の院（納経堂と大仏殿）につながっています。納経堂には歴史的な仏である釈迦牟尼と、豊富な宝の仏である多宝如来の像が祀られています。これらの像は、僧侶円仁が中国で仏教を学んだ後に、中国から持ち帰ったと言われています。隣の大仏殿の中には高さ４.８メートルの金仏像、阿弥陀如来像が納められています。

もう一方の遊歩道は、慈覚大師円仁を祀る開山堂につながっています。その中には、創建者の木造の像が安置されており、僧侶が、朝晩、食べ物を供えています。断崖絶壁に露出している赤い小さな建物が、納経堂です。納経堂は、修行中の僧侶が書き写した経典を納めるための場所です。狭い階段は、開山堂の上の絶壁に建てられた五大堂に続いています。五大堂からは、立石寺と眼下の渓谷を、何にも遮られずに眺めることができます。

番号 NO：004-014

＜簡体字＞

夺衣婆与姥堂

在佛教中，死者必须渡过位于今世与来世交界处的三途川。可怕的守望者夺衣婆守在河边，强迫即将进入來世的人褪去衣物。然后，与夺衣婆作伴的魔鬼悬衣翁会将衣物挂上树枝，以称量死者的罪孽。

在通往山寺顶端的石路上，有一座名为“姥堂”的小型殿堂，里面就供奉着引人注目的夺衣婆像。姥堂象征着天国与地狱的交界。过去，信徒会在此脱去衣物，清洁身体，象征性地从一条山下流下的小溪中取水来净化他们的心灵。他们会将自己的衣物献给夺衣婆，然后换上新装，继续向山上前进。据说，他们每走一步，世俗的罪孽和欲望就会减少一分。

番号 NO：004-014

<繁体字>

奪衣婆與姥堂

在佛教信仰中，人們相信死者必須渡過位於今世與來世交界處的三途川。令人心生畏懼的看管者奪衣婆守在河邊，強行從即將進入來世的人們身上奪走衣物，然後將奪來的衣物交給夥伴懸衣翁，懸衣翁接著會將衣物掛在樹枝上，以衡量死者的罪孽。

通往山寺頂端的石路上，有一座名為「姥堂」的小型殿堂，當中就供奉著引人注目的奪衣婆像。姥堂象徵著天界與地獄的交界。信徒過去會脫去衣物，並自山上往下流的小溪中取水洗淨身體，代表心靈得到淨化。他們會將自己的衣物獻給奪衣婆，然後換上新裝，繼續往山上前進。據說，他們每走一步，世俗的罪孽和欲望就會減少一分。

番号 NO：004-014

＜日本語仮訳＞

奪衣婆と姥堂

仏教では、亡くなった人は、この世とあの世の境界線である三途の川を渡らなければなりません。川辺では恐ろしい奪衣婆が見張っていて、あの世へと渡る者の衣服を剝ぎ取ります。奪衣婆の仲間の鬼、懸衣翁が衣服を木に掛け、その者の罪の重さを計ります。

山寺へ続く石造りの道沿いにある姥堂には、印象的な奪衣婆像が安置されています。この堂は、上にある極楽と下にある地獄の間の象徴的な入口です。過去には、信者は服を脱ぎ、魂浄化の象徴として、山から滴り落ちてくる小川の水で身体を洗いました。彼らは服を奪衣婆に捧げ、新しい服に着替えて上へ進みました。一歩上るごとに、世俗的罪と欲望がそぎ落とされていくと言われています。

番号 NO：004-015

＜簡体字＞

蝉冢

1689 年，著名俳句诗人松尾芭蕉 (1644–1694) 从江户（今东京）出发，展开了为期 156 天的旅程，途经日本东北地区和北陆地区。松尾芭蕉与他的弟子河合曾良 (1649–1710) 一起步行完成了大部分路程。两人追随芭蕉敬仰的诗人西行 (1118–1190) 的足迹，游历了西行和其他诗人的古诗中描述的许多地方。根据这段旅程，芭蕉创作了融合诗歌与散文的游记《奥之细道》（深入北方的小路）。

当芭蕉和曾良在附近的尾花泽下榻时，当地居民推荐他们游览山寺，于是，二人于阴历七月十三日来到此地。当看到建于丛林间美丽宁静的山寺建筑群，芭蕉灵感迸发，创作出俳句《蝉》：

万籁俱寂，蝉声渗石

为纪念这首俳句，人们在通往山寺上端的途中竖立起一块蝉冢石碑。多年来，许多诗人曾前来凭吊，包括当地著名诗人、散文家斋藤茂吉 (1882–1953)。

番号 NO：004-015

<繁体字>

蟬塚

西元 1689 年，知名的俳句詩人松尾芭蕉（西元 1644-1694）從江戶（今東京）出發，在日本東北和北陸地區展開 156 天的旅程。松尾芭蕉與他的弟子河合曾良（西元 1649–1710）一起步行走完了大部分路程。兩人跟隨芭蕉敬仰的詩人西行（西元 1118-1190）的腳步，遊歷了許多因西行和其他詩人在詩中描繪而名氣響亮的地點。芭蕉以該次旅程為題材，創作出集結詩歌與散文的遊記《奧之細道》（深入北方的狹窄道路）。

芭蕉和曾良在附近的尾花澤市下榻時，當地居民推薦他們遊覽山寺，兩人於是在陰曆 7 月 13 日來到此地。當看到建於森林間的山寺建築群莊嚴美麗、寧靜祥和的氛圍後，芭蕉為之觸動，因而創作出俳句《蟬》：

山林幽靜，蟬聲滲入岩石裡

為紀念這首俳句，人們在通往山寺頂端的路上立了一座名為「蟬塚」的石碑。多年來，許多詩人都曾前來致敬，包括既是當地著名詩人，也是散文家的齋藤茂吉（西元 1882–1953）。

番号 NO：004-015

＜日本語仮訳＞
せみ塚

有名な俳人、松尾芭蕉（1644～1694 年）は、1689 年、江戸（現在の東京） から日本の北東北・北陸地方まで、156 日間の旅をしました。芭蕉は、弟子の河合曽良 （1649～1710 年） とともに、ほとんどの道のりを歩いて旅しました。2 人は、芭蕉がとても尊敬していた詩人、西行（1118 年～1190 年）の足跡をたどり、西行などが詠んだ数々の場所を訪れました。2 人の旅は、詩と散文を織り交ぜた旅行記であるおくのほそ道の題材となりました。

芭蕉と曽良は滞在していた近隣の町、尾花沢の住民に勧められ、太陰暦 7 月 13 日に山寺を訪れました。芭蕉は盛りに包まれた山中の境内で、その静けさと美しさに感銘を受け、蝉の俳句を詠みました。

閑さや　　Such stillness―（なんという閑さか）
岩にしみ入る　　The cries of the cicadas（蝉の声が）
蝉の声 Sinks into the rocks（岩にしみ入っていく）

(ドナルド・キーン訳)

せみ塚の石碑は、山寺の上層部へと続く道沿いに立っています。長年の間に、数多くの詩人が敬意を表して訪れており、有名な地元の 詩人であり、随筆家でもある斎藤茂吉（1882 年～1953 年）もその 1 人です。

番号 NO：004-016

＜簡体字＞

纳经堂与开山堂

纳经堂

纳经堂是一座小巧的红色经堂，坐落在山寺建筑群上端的悬崖之上。据说，山寺创始人圆仁和尚 (794–864) 的遗体安息在其下方一具曾镶有黄金的棺椁中。僧侣在山寺修行期间必须抄写佛经，期间可长达四年；僧侣会将抄写完成的经文庄严地放入纳经堂，作为献给圆仁和尚的贡品。纳经堂原建筑于 1987 年修复，被山形县指定为重要文化财产，是山寺最具代表性的景色之一。

开山堂

开山堂位于纳经堂旁，供奉着山寺创始人的木制雕像。每日早晚，僧侣都会向这座雕像进贡食物并上香。开山堂每年仅在圆仁和尚的忌日（1 月 14 日）当天开放。在这一天，人们会举行佛教纪念仪式来缅怀他。现存的开山堂建筑可追溯至 19 世纪中期。

番号 NO：004-016

<繁体字>

納經堂與開山堂

納經堂

納經堂是一座小巧的紅色經堂，坐落在山寺建築群頂端的懸崖之上，據說，山寺建立者圓仁和尚（西元 794–864）的遺體安放在下方一具過去外層為黃金的棺材中。僧侶們在山寺修行期間必須抄寫佛經，過程可長達 4 年。經文抄寫完畢後，僧侶們會依照儀式將其納入納經堂，作為獻給圓仁和尚的奉納品（祭祀品）。納經堂的原建築於西元 1987 年修復，並被列為縣指定重要文化財，是山寺最具代表性的景色之一。

開山堂

納經堂旁為「開山堂」，現存的建築寺可追溯至 19 世紀中期，裡頭供奉著山寺建立者的木造雕像。僧侶每天早晚都會向這尊雕像進貢食物和上香。開山堂每年僅在 1 月 14 日，即圓仁和尚的忌日開放，當天人們將舉行佛教法會緬懷他。

番号 NO：004-016

＜日本語仮訳＞

納経堂と開山堂

納経堂

山寺の断崖絶壁の上に建つ小さな赤い建物、納経堂の下には、山寺の創建者である慈覚大師円仁（794～864 年）の遺骸が、かつて黄金に包まれていた棺に納められていると言われています。山寺では、修行の一環として僧侶が経典を書き写します。この写経の工程は長く、最長で 4 年を要します。この作業が終わると、写経は円仁への奉納品として納経堂に納められます。本来の建物は、1987 年に修理されています。県指定重要文化財に指定されており、山寺の最も象徴的な建築物の 1 つです。

開山堂

開山堂は、納経堂の隣にある建物です。御堂には慈覚大師円仁の木造の尊像が安置されており、朝夕、食べ物と香が絶やさず供えられています。開山堂は、慈覚大師円仁の命日にあたる 1 月 14 日だけ、法要のために開かれます。この日には、慈覚大師円仁の慰霊祭が行われます。今日の御堂は、1800 年代中期にまで遡ります。

番号 NO：004-017

＜簡体字＞

五大堂

五大堂位于山寺上端，伫立在悬崖边。殿内供奉“五大明王”，即五位令人生畏的佛教信仰守护神。

在五大堂可俯瞰整个山寺建筑群，且远从山下的山寺站就可以望见。殿堂采用架空结构，从悬崖边露出。游客必须经由一条毫不起眼的狭窄石梯才能登上此处，石梯的下端则是用于纪念山寺创始人的开山堂。从五大堂望去，可将整个寺庙建筑群和下方的山谷尽收眼底。

番号 NO：004-017

<繁体字>

五大堂

五大堂位於山寺頂端，佇立在懸崖邊。寺內供奉「五大明王」，即佛教信仰中五位令人生畏的守護神。

在五大堂可俯瞰整座山寺建築群，而且地勢之高，遠從山下的山寺車站就可望見。殿堂建於支柱並矗立在懸崖之上。若要登上此處，必須先從紀念山寺建立者的開山堂出發，攀爬一條不起眼的狹窄石梯。從五大堂望去，可將整座山寺建築群和下方的山谷美景盡收眼底。

番号 NO：004-017

＜日本語仮訳＞

五大堂

五大堂は山寺の上層部の断崖に立っています。この堂には、仏教信仰の恐ろしい守護神・五大明王（5 人の賢い王）が祀られています。

五大堂からは境内全体を見渡すことができ、五大堂そのものは遥かふもとの山寺駅からも見えます。五大堂は支柱の上に建っており、断崖に突き出しています。山寺の創設者に捧げて建てられた開山堂から、目立たない石造りの狭い階段を上ると、この堂にたどり着きます。五大堂からは、立石寺と眼下の渓谷を遮られることなく眺めることができます。

番号 NO：004-018

＜簡体字＞

弥陀洞

在通往山寺上端的途中，有一块饱经风霜的巨大岩壁，名为弥陀洞。数百年间，风雨使岩壁的形态不断改变，形成的样貌仿佛一尊高 4.8 米的天佛阿弥陀佛像。据说能看出这种关联的游客会得到阿弥陀佛的庇护。

阿弥陀佛像下方的岩壁上刻有诸多牌位，一些名为“后生车”的木制冥器倚靠在岩壁底部。后生车上刻有死者的法名，并有一个可旋转的祈祷轮。轮上书写着佛经，滚动祈祷轮便象征着诵经。

番号 NO：004-018

<繁体字>

彌陀洞

彌陀洞坐落於通往山寺頂端的路上，是一座久經風化的巨大岩壁。數百年間在大自然雕刻下，歷經風雪侵蝕的岩壁讓人聯想到高 4.8 公尺的阿彌陀佛如來像。據說若能看出兩者的相似性，就會得到阿彌陀佛如來的加持。

彷彿阿彌陀佛如來的岩壁表面刻有諸多牌位，名為「後生車」的木製冥器則倚在底部。後生車刻有死者的法號，上端有一處可旋轉並寫有佛經的祈禱輪，轉動輪子便象徵著為死者誦經。

番号 NO：004-018

＜日本語仮訳＞

弥陀洞

弥陀洞は、山寺の上層部へと続く道沿いにある、風化した巨大な岩面です。何世紀もかけて風雪に削られ風化した岩の表面が、高さ 4.8 メートルの阿弥陀如来の姿を思わせます。阿弥陀如来の姿に見える人には、ご利益があると言われています。

阿弥陀如来の姿の岩肌にはいくつもの位牌が刻まれており、後生車と呼ばれる木製の位牌が岩肌の下に立てかけられています。後生車には、亡くなった人の戒名が刻まれており、回転する祈りのための車が付いています。車には経が書かれており、これを回すと経をあげることに相当するとされています。

番号 NO：004-019

＜簡体字＞

仁王门

穿过仁王门后，游客要忍受两侧仁王护法如炬的目光。右侧的那罗延张着嘴，仿佛在发“啊”的音，左侧的密迹则闭着嘴，好像在发“嗯”的音。这两个音节是梵文字母表中第一个和最后一个字母的日语读法，象征着万物的生与死。大门内有一尊地狱之王阎魔王像和九位判官的雕像，仿佛要审判所有来者。

仁王门是山寺建筑群登顶之路的中间点，它于 1848 年使用榉木重新建成，是山寺最新的建筑之一。据说，仁王像是当时最著名的佛教雕塑家之一，运庆 (1150–1223) 的弟子之作。

番号 NO：004-019

<繁体字>

仁王門

穿過仁王門後，兩側目光如炬的仁王像也許會讓人不寒而慄。右側的那羅延張著嘴，彷彿在發出「啊」的聲音，左側的密跡閉著嘴則像「嗯」，兩個音節是梵文字母表中第一個和最後一個字母的日語讀法，象徵著萬物的生與死。大門內則有一尊地獄之王閻羅王像，以及九位判官的雕像，彷彿要審判所有前來此處的人們。

仁王門是山寺建築群登頂之路的中間點，於西元 1848 年以櫸木木材重建，是山寺最新的建築之一。據說，仁王像是運慶則是當時最著名的佛像雕塑師之一，運慶（西元 1150–1223）的弟子之作。

番号 NO：004-019

＜日本語仮訳＞

仁王門

仁王門を通る参拝者は、門の両脇を守る恐ろしい仁王の厳めしい睨みに耐えなければなりません。右側の那羅延は、あ、と声を上げるように口を開いており、左側の密迹はうんと言うように口を閉じています。これらの 2 つの音節は、サンクリット語のアルファベットの最初と最後の文字の日本語読みであり、2 つを合わせて全てのものの生と死を象徴しています。門の中には、通る者すべてを裁くかのように、地獄の王である閻魔大王の像と 9 人の裁判官が立っています。

仁王門は、山寺の境内の一番上までの中間地点です。1848 年にケヤキ材を使って再建されており、この寺の最も新しい建築物の 1 つです。仁王像は、当時最も名高い仏師の 1 人であった運慶（1150 年～1223 年）の弟子の作品と考えられています。

番号 NO：004-020

＜簡体字＞

胎内潜与胎内堂

胎内堂是一座小型单层建筑，建在山寺建筑群上端的一处悬崖边。过去，僧侣们为了到达这座建筑，会穿过悬挂在岩石缝隙中的古老水平木梯，然后爬过一个名为胎内潜的狭窄石洞。胎内的字面意思为“子宫”，人们认为，穿过这个石洞象征着灵魂重生。

胎内堂曾用于冥想和苦行，现供奉着众生救世主地藏菩萨的六尊佛像，不对公众开放。

番号 NO：004-020

<繁体字>

胎內潛與胎內堂

胎內堂是一座小型單層建築，建在山寺建築群頂端的一處懸崖邊。僧侶們過去須由架在岩縫上的古老水平木梯通過，然後爬過名為「胎內潛」的狹窄石洞才能抵達。「胎內」在日文指的是「子宮」，如同字面上的意思，人們認為穿過石洞象徵著靈魂重生。

胎內堂過去用於冥想和其他苦行，現在供奉著六尊眾生的救世主地藏菩薩佛像，不過此處並無對外開放。

番号 NO：004-020

＜日本語仮訳＞

胎内くぐりと胎内堂

胎内堂は、山寺の上層部の崖の斜面に建てられた、小さな平屋建ての建物です。僧侶は、岩の割れ目に架けられた古びた水平な木製の梯子を渡り、胎内くぐりと呼ばれる狭い石の洞窟を這って、この堂まで行きます。胎内とは、文字通り「子宮」を意味します。この洞窟を通り抜けることは、魂が再生することの象徴と考えられています。

この堂には、生きとし生けるものの救い主である菩薩地蔵の像が 6 体安置されており、かつては瞑想と苦行に使われていました。一般公開されていません。

番号 NO：004-021

＜簡体字＞

东宫行启纪念殿 (Web)

1908 年 9 月 18 日，后来成为大正天皇的嘉仁皇太子 (1879–1926) 造访山寺。皇室大驾光临使山寺一跃成为日本全国闻名的旅游胜地，亦被认为是山寺在 1932 年被列入日本国家指定名胜一事上不可或缺的原因。这座建筑位于寺庙群上端，原是供皇太子在游览期间休息，现被称为东宫行启纪念殿。

番号 NO：004-021

<繁体字>

東宮行啟紀念殿 (Web)

西元 1908 年 9 月 18 日，後來成為大正天皇的嘉仁皇太子（西元 1879－1926）造訪山寺。皇室的大駕光臨，使得山寺一躍成為日本全國知名的旅遊勝地，亦被認為是山寺在 1932 年被列入日本國家指定名勝一事上不可或缺的因素。東宮行啟紀念殿位於寺院群頂端，原是皇太子在遊覽期間休息用的場所。

番号 NO：004-021

＜日本語仮訳＞

東宮行啓記念殿

1908 年 9 月 18 日に大正天皇（1879 年～1926 年）、または当時の名で嘉仁皇太子が、山寺を訪問されました。皇太子の訪問により、観光地としての山寺の全国的知名度は一気に高まりました。またこの訪問は、1932 年に山寺が日本国指定名勝に指定されるに至った不可欠な要因であると考えられています。皇太子が滞在中に休憩に使用するための建物が寺の境内の上層部に建設され、現在は東宮行啓記念殿として知られています。

番号 NO：004-022

＜簡体字＞

锅太郎和山形县芋煮会 (Sign)

在秋风瑟瑟的时节，许多山形县的人会吃碗热气腾腾的芋煮来暖身。顾名思义，这碗汤的主要材料是芋头（"里芋"），以炖煮的方式烹制而成。这道菜起源于江户时代 (1603–1867)，船夫们会在当时为运输货物的重要水道的最上川河岸边煮芋头和鳕鱼干。

从那时起，这道菜的做法不断变化，还出现了许多种地方版本，但通常都是以酱油为底，配以芋头、蒟蒻（魔芋）、大葱和牛肉。在河边举行的芋煮派对（芋煮会）已成为例行的秋季活动，自 1989 年以来规模最盛大的芋煮会便是在山形县举行。这场盛会每年 9 月在马见崎川两岸展开，承办组织会准备足足 3 万份芋煮。由于一次需要烹煮大量食材，人们会使用数吨重的大锅"锅太郎"。待食材煮熟后，不使用汤勺，而是用挖掘机将汤倒入较小的锅中。2018 年，在第 30 届芋煮会期间，以 8 小时内一共提供了 12,695 份芋煮的壮举被纳入吉尼斯世界纪录。

多年来，锅太郎已经传承了好几代。第二代锅太郎高 1.6 米，直径 6 米，重达 3.2 吨，曾在 1993 年至 2018 年的芋煮会上使用。它现在被安置在山寺附近的立谷川河岸。

番号 NO：004-022

<繁体字>

鍋太郎和山形縣芋煮會 (Sign)

在秋季天氣較為寒冷的時候，許多山形縣的人會吃一碗熱騰騰的芋煮來暖身。顧名思義，這碗湯是以芋頭（「里芋」）為主要材料，然後再加以燉煮的料理，歷史則可追溯到江戶時代（西元 1603－1867），當時最上川是用於運輸貨物的重要水道，船夫們則會在河岸烹煮芋頭和鱈魚乾。

從那時起，芋煮的做法不斷變化，還出現許多各地方獨有的版本，不過一般都是以醬油為底，放入芋頭、蒟蒻、蔥和牛肉等材料，在河邊舉行的芋煮會則已成為例行的秋季活動。自西元 1989 年以來，山形縣便一直舉辦日本規模最盛大的芋煮會，每年 9 月在馬見崎川的河岸邊舉行，承辦單位會準備足足 3 萬份芋煮。由於需要一次烹煮大量食材，人們會使用數公噸重的大鍋「鍋太郎」。料理完成後並非使用湯勺，而是用挖土機將湯倒入較小的鍋中。西元 2018 年舉辦第 30 屆芋煮會時，以 8 小時內共提供 12,695 份芋煮，獲得金氏世界紀錄認證。

多年下來，鍋太郎已歷經多「代」更迭，其中第二代鍋太郎高 1.6 公尺，直徑 6 公尺，重達 3.2 公噸，在西元 1993 年至 2018 年期間用於芋煮會活動，現在則安置於山寺附近的立谷川河岸。

番号 NO：004-022

＜日本語仮訳＞

鍋太郎と山形県芋煮会（看板）

寒い秋の時期、山形の人々は温かい芋煮で身体を温めます。このスープの名前は、サトイモというその主な材料と、煮るという調理法からくる名前です。 芋煮は江戸時代（1603～1867 年）にまで遡り、商品を運搬するための重要な水路であった最上川の河原で、船頭たちがサトイモと棒鱈を煮ていたことが発祥といわれています 。

以来、芋煮は進化し、さまざまな種類が存在します。しかし、一般的には、サトイモに加え、こんにゃく、長ネギ、牛肉を使用したしょうゆベースのスープです。芋煮会という河原で行われる芋煮パーティーは、定番の秋の行事になっており、山形では、1989 年以降、日本最大の芋煮会が開催されています。9 月になると、馬見ヶ崎川の河川敷で、3 万食の芋煮が用意されます。大規模な調理を行うため、「鍋太郎」と呼ばれる巨大な数トン用鍋が使用されます。調理が終わると、おたまの代わりにバックホーを使って小さめの鍋に注ぎ分けられます。

これまでに、数世代 の鍋太郎が活躍しています。二代目鍋太郎は、高さ 1.6 メートル、直径 6 メートル、重さ 3.2 トンで、1993 年から 2018 年の芋煮会で使用されてきました。現在は、ここ山寺付近の立谷川河川敷沿いに設置されています。2018 年の「第 30 回 日本一の芋煮会フェスティバル」ではギネス世界記録を達成し、「8 時間で最も多く提供されたスープ」として 12,695 人前が提供されました。

番号 NO：004-022

＜簡体字＞

锅太郎和山形县芋煮会 (Web)

在秋风瑟瑟的时节，山形县的许多人会以一碗热气腾腾的芋煮来暖身。“芋煮”这一名称的第一个字代表主要原料芋头，第二个字代表烹饪方式“炖煮”。这道菜起源于江户时代 (1603–1867)，当时人们经由最上川从山形向日本其他地区运输货物，船夫们会在这条重要水道的河岸上煮芋头和鳕鱼干。

数百年来，这道菜的做法不断变化，还出现了许多种地方版本，但通常都是以酱油为底，配以芋头、蒟蒻（即魔芋，一种由山地薯芋类作物制成的胶质食物，口感紧实）、大葱和牛肉。在河边举行的芋煮派对（芋煮会）已成为例行的秋季活动，自 1989 年以来规模最盛大的芋煮会便是在山形县举行。这场盛会每年 9 月在马见崎川两岸开展，承办组织会准备足足 3 万份芋煮。以前的芋煮会使用的食材包括：

- 3 吨芋头
- 1.2 吨牛肉
- 3500 片蒟蒻
- 3500 根大葱
- 200 公斤砂糖
- 5 吨水
- 700 升酱油
- 63 升清酒

由于一次需要烹煮大量食材，人们会使用数吨重的大锅“锅太郎”。待食材炖煮超过三小时后，不使用汤勺，而是用挖掘机将汤倒入较小的锅中。2018 年，在第 30 届芋煮会期间，以 8 小时内一共提供了 12,695 份芋煮的壮举被纳入吉尼斯世界纪录。

多年来，锅太郎已经传承了好几代。第二代锅太郎高 1.6 米、直径 6 米，重达 3.2 吨，曾在 1993 年至 2018 年的芋煮会上使用。它现在被安置在山寺附近的立谷川河岸。

番号 NO：004-022

<繁体字>

鍋太郎和山形縣芋煮會 (Web)

在秋季天氣較為寒冷的時候，許多山形縣的人會吃一碗熱騰騰的芋煮來暖身。顧名思義，「芋煮」名稱第一個字是代表主要原料的「里芋」（芋頭），第二個字則為「燉煮」的烹調方式。這道料理的歷史可追溯到江戶時代（西元 1603 - 1867），當時人們利用最上川將貨物從山形運至日本各地，船夫們會在這條主要水道的河岸邊烹煮芋頭和鱈魚乾。

數百年來，這道料理的做法不斷變化，還出現各地方獨有的版本，不過一般都以醬油為底，然後加入芋頭、蒟蒻、大蔥和牛肉等食材。至於在河邊舉行的芋煮會已成為例行的秋季活動，承辦單位會準備足足 3 萬份芋煮。以前的芋煮使用的食材包括：

- 3 公噸的芋頭
- 1.2 公噸的牛肉
- 3,500 片蒟蒻
- 3,500 根大蔥
- 200 公斤的砂糖
- 5 公噸的水
- 700 公升的醬油
- 63 公升的清酒

由於需要一次烹煮大量食材，人們會使用數公噸重的「鍋太郎」。料理完成後並非使用湯勺，而是用挖土機將湯倒入較小的鍋中。

多年下來，鍋太郎已歷經多「代」更迭，其中第二代鍋太郎高 1.6 公尺，直徑 6 公尺，重達 3.2 公噸，用於西元 1993 年至 2018 年期間的芋煮會，現在則安置於山寺附近的立谷川河岸。西元 2018 年舉辦第 30 屆芋煮會時，以 8 小時內共提供 12,695 份芋煮，獲得金氏世界紀錄認證。

番号 NO：004-022

＜日本語仮訳＞

鍋太郎と山形県芋煮会（ウェブ）

寒い秋の時期、山形の人々は温かい芋煮で身体を温めます。このスープの名前は、サトイモというその主な材料と、肉を煮るという調理法の組み合わせです。芋煮は江戸時代（1603～1867 年）にまで遡り、山形からほかの地域へ商品を運搬するために使用されていた最上川の河原で、船頭たちがサトイモと棒鱈を煮ていたことが発祥といわれています 。

数世紀にわたり、芋煮は進化を遂げ、地域により色々な種類が存在します。基本的には、こんにゃく、長ネギ、牛肉、サトイモが入ったしょうゆベースのスープです。芋煮会という河原で行われる芋煮パーティーは、定番の秋の行事になっており、山形では、1989 年以降、日本最大の芋煮会が開催されています。9 月になると、馬見ヶ崎川の河川敷で、3 万食の芋煮が用意されます。前の芋煮会で使用された具材は次の通りです。

- サトイモ 3 トン
- 牛肉 1.2 トン
- こんにゃく 3,500 枚
- 長ネギ 3,500 本
- 砂糖 200 キロ
- 水 5 トン
- しょうゆ 700 リットル
- 酒 63 リットル

大規模な調理を行うため、「鍋太郎」と呼ばれる巨大な数トン用鍋が使用されます。 3 時間以上の調理が終わると、おたまの代わりにバックホーを使って小さめの鍋に注ぎ分けられます。

これまでに、数世代の鍋太郎が活躍しています。二代目鍋太郎は、高さ 1.6 メートル、直径 6 メートル、重さ 3.2 トンで、1993 年から 2018 年の芋煮会で使用されてきました。現在は、山寺付近の立谷川河川敷沿いに設置されています。2018 年の「第 30 回 日本一の芋煮会フェスティバル」ではギネス世界記録を達成し、「8 時間で最も多く提供されたスープ」として 12,695 人前が提供されました。

番号 NO：004-023

＜簡体字＞

山寺的四季 - 春季 (Web)

随着山上深厚的积雪开始融化，山寺四周的丛林中也开始慢慢显现绿意，焕发生机。星星点点的樱花树通常在 4 月中下旬开花，到了 6 月，春天接近尾声，五颜六色的绣球花装点着寺庙群。在这个季节，山寺天气温和舒适，徒步游览寺庙惬意无比。

山寺在春季有多场活动，其中两场对公众开放：圆仁祭和山王祭。圆仁祭于每年 4 月 14 日举行，庆祝山寺创始人圆仁和尚 (794–864) 的诞辰。当天，游客可以在山寺本堂根本中堂参加悼念仪式。山王祭于每年5 月 17 日举行。伴随着传统音乐，人们将三顶神舆（可移动的神龛）从日枝神社抬到寺庙群下的街道上。

番号 NO：004-023

<繁体字>

山寺的四季 - 春季 (Web)

隨著山上深厚的積雪開始融化，山寺樹木蔥鬱的山坡也開始慢慢展現綠意與生機。遍布各處的櫻花樹通常在 4 月中下旬開花，到了 6 月春季接近尾聲時，寺院群境內開滿繡球花，將此處妝點得五顏六色。此時的天氣溫和舒適，漫步走在寺院間非常愜意舒適。

山寺在春季期間會舉辦多場活動，其中圓仁祭和山王祭對外開放。圓仁祭於 4 月 14 日舉行，紀念建立山寺的圓仁和尚（西元 794‐864）誕辰。在祭典期間，遊客可以前往山寺本堂，參加在根本中堂中舉行的法會。至於山王祭則在 5 月 17 日舉行。人們會伴隨著傳統音樂，抬著三座「神輿」（可移動的神龕）從日枝神社到位於寺院群下方的街道。

番号 NO：004-023

＜日本語仮訳＞
山寺の四季 ― 春（ウェブ）

冬に降った山腹の深い雪が解け始めると、山寺の木々に覆われた斜面は新緑が目を出し、徐々に生き生きとしてきます。点在するサクラの木は、通常 4 月中旬から下旬にかけて開花し、春の終わりが近い 6 月になると、アジサイが境内を彩ります。穏やかな気候は、境内をハイキングするのに適しています。

山寺では複数の春の催しが行われ、そのうちの 2 つ円仁祭と山王祭は一般に公開されています。円仁祭は、山寺を建立した僧侶、円仁（794 年～864 年）の誕生日を祝って、4 月 14 日に開催されます。祭りの最中は参拝者も、寺の本堂である根本中堂で行われる法要に参加することができます。山王祭は、5 月 17 日に開催されます。3 基の神輿が、伝統的な音楽に合わせて、日枝神社から寺下の道路へと運ばれます。

番号 NO：004-024

＜簡体字＞

山寺的四季 - 夏季 (Web)

夏季，通往山寺奥之院的石道两旁绿树成荫，是避暑纳凉的理想环境。诗人松尾芭蕉 (1644–1694) 在他生平最后一部游记《奥之细道》（深入北方的小路）中以山寺上的蝉鸣声创作出一首著名诗歌，这种独特的蝉鸣声至今仍在林间回荡。山形县是日本最大的樱桃产地，在去往山寺的路上，游客可能会看到在路边兜售这种时令水果的店家。

磐司祭是山寺每年夏季最盛大的公共活动，旨在纪念传奇猎人磐司磐三郎（生卒年不详）的丰功伟绩。用于修建山寺的土地正是由他捐赠给山寺创始人圆仁和尚 (794–864)。据传说，磐司在见过圆仁后，决定放弃在该地区狩猎。山上的动物们因此聚在二人面前高兴地跳舞。人们根据这则传说创作出在磐司祭当天表演的狮子踊（狮子舞）。

番号 NO：004-024

<繁体字>

山寺的四季 - 夏季 (Web)

到了夏季，通往山寺奥之院的石道兩旁綠樹成蔭，成為遠離酷熱、避暑納涼的理想環境。俳句詩人松尾芭蕉（西元 1644 - 1694）在他生平最後一部遊記作品《奥之細道》（深入北方的狹窄道路）中，描繪來到此處時蟬聲陣陣，現今仍可聽見獨特的鳴叫在林間迴盪。山形縣是日本最大的櫻桃產地，在前往山寺的途中，路邊店家可能有在販售這種時令水果。

磐司祭是山寺最盛大且對外開放的夏季活動，旨在紀念傳奇獵人磐司磐三郎（生卒年不詳）的豐功偉績，正是他將修建山寺的用地，捐贈給建立山寺的圓仁和尚（西元 794–864）。據傳磐司在見過圓仁和尚後，決定放棄在當地狩獵。山上的動物們因此聚在二人面前，快樂地跳起舞來。人們根據這則傳說創作出在磐司祭表演的「獅子踊」（獅子舞）。

番号 NO：004-024

＜日本語仮訳＞

山寺の四季 ― 夏（ウェブ）

夏になると、山寺の内宮に続く石造りの道沿いに生い茂った木々が、夏の厳しい暑さを遮ってくれます。詩人松尾芭蕉（1644 年～1694 年）が、彼の最後の作品である旅行記奥の細道で詠った蝉の声が、山腹に響きます。山形県はサクランボの生産量が日本一で、山寺に向かう道端でサクランボを販売している人を見かけることがあります。

山寺の夏の最大の一般公開イベントは磐司祭です。これは、寺を建立した僧侶円仁（794 年～864 年）に、山寺が立っている土地を寄付した伝説的狩人磐司磐三郎（生没年不詳）の功績を讃える祭りです。伝説では、磐司は円仁に出会った後に、この辺りでの狩りを止めたそうです。山の動物たちは 2 人の前に集まり、喜びに満ちて踊りました。磐司祭で披露される獅子踊りは、この時の様子を表すものです。

番号 NO：004-025

＜簡体字＞

山寺的四季 - 秋季 (Web)

山寺建筑群四周的森林中升起晨雾，萦绕于山间，树叶褪去夏季的绿意，开始换上火红色或金黄色的秋装。在前往寺庙的途中，游客们可以在沿途的店里买一碗芋煮（以芋头、大葱、蒟蒻和牛肉制成）驱散寒意。凉爽的天气正适合登上五大堂的轻快旅程，将四周山谷间的秋叶美景尽收眼底。

在秋分那一周，位于山寺上端的奥之院会举行对公众开放的传统法事。在山寺修行的僧侣必须抄写《妙法莲华经》，过程极为漫长，可以长达四年才能完成。每逢闰年的 11 月 28 日，僧侣们会列队前往纳经堂，将抄写完成的经文献给山寺创始人圆仁 (794–864)。

番号 NO：004-025

<繁体字>

山寺的四季 - 秋季 (Web)

山寺位於森林密布的山間，周圍升起晨霧，當樹葉褪去夏季的綠意，開始換上火紅色或金黃色的秋裝。在前往寺院途中，許多商店提供以芋頭、大蔥、蒟蒻和牛肉烹煮的芋煮，遊客們可以買用一碗熱湯來驅逐寒意。此時天氣涼爽，適合踩著輕快的腳步前往五大堂，將四周山谷間的秋葉美景盡收眼底。

在秋分當週，位於山寺頂端的奥之院會舉行傳統佛教法會，並且對外開放。此外，在山寺修行的僧侶必須抄寫《妙法蓮華經》，這段過程相當漫長，最久需要 4 年才能完成。每逢閏年 11 月 28 日，僧侶們會列隊前往納經堂，將抄寫完成的經文獻給建立山寺的圓仁和尚（西元 794–864）。

番号 NO：004-025

＜日本語仮訳＞
山寺の四季 ― 秋（ウェブ）

木々に覆われた山寺の山から朝霧が立ち昇り、木の葉の色が夏の緑から、秋の燃えるような赤と黄金色に変わります。訪れる人々は、寺院への道沿いの店の温かい芋煮（里芋、ネギ、こんにゃく、牛肉が入った醤油ベースのスープ）で身体を温めることができます。涼しい気候は五大堂まで急ぎ足で向かうのに適していて、ここからは渓谷の紅葉を眺めることができます。

秋分の週に山寺の上層部にある奥の院で行われる伝統的な仏教の法要には、一般参拝者も参加することができます。山寺で修行する僧侶たちは法華経を写経しなければなりません。これは時間のかかる作業で、完了までに 4 年間かかることもあります。うるう年の 11 月 28 日には、僧侶の行列が、山寺を建立した円仁（794 年～864 年）への捧げものとして、写し終えた教を納経堂に納める儀式を行います

番号 NO：004-026

＜簡体字＞

山寺的四季 - 冬季 (Web)

山形县是日本豪雪地区之一。每到冬天，坐落在山坡上的山寺建筑群就仿佛披上了一张白色的毯子。游客必须穿着适当的衣物和鞋履，才能对抗严寒和厚厚的积雪。从靠近寺庙建筑群顶端的五大堂眺望，远处白雪皑皑的山峰仿佛一幅水墨画展现在天地之间。

日本有在 1 月初前往神社或寺庙进行新年参拜（初诣）的习俗，每年此时，山寺会迎来大批游客。1 月 14 日是山寺创始人圆仁 (794–864) 的忌日，在这一天，山寺上端用于供奉圆仁的开山堂会敞开大门，并举行祭拜仪式来纪念圆仁。

番号 NO：004-026

<繁体字>

山寺的四季 - 冬季 (Web)

山形縣是日本豪雪地區之一。每到冬季，坐落於山形縣山坡上的山寺建築群好似披上白毯。為了在嚴寒天氣中穿越厚厚的積雪前往山寺，遊客應穿著適當的衣物和鞋子。從靠近寺院建築群頂端的五大堂眺望，遠處白雪覆蓋的山峰彷彿一幅水墨畫般展現在天地之間。

在 1 月初，日本有前往神社或寺院進行新年參拜（「初詣」）的習俗，每年此時山寺迎來大批遊客。1 月 14 日則是圓仁和尚（西元 794–864）的忌日，開山堂（位於山寺頂端，供奉圓仁和尚的寺院）屆時會敞開大門，並舉行法會儀式來紀念建立山寺的他。

番号 NO：004-026

＜日本語仮訳＞

山寺の四季 ― 冬（ウェブ）

山形は日本で最も積雪量の多い県の 1 つで、冬になると、山腹の寺は雪に覆われます。登山の際は、雪山に適した服装や靴を用意していきましょう。山寺上層部近くの五大堂までたどりつくことができれば、水墨画のような雪に覆われた山並みを遠くに見渡すことができます。

1 月初頭には、山寺は初詣の人気スポットとなります。1 月 14 日は、山寺を建立した円仁（794 年～864 年）の命日です。この日は、開山堂（寺の上層部にある、円仁を祀った堂）の扉が開かれ、円仁を讃えて法要が行われます。

番号 NO：004-027

＜簡体字＞

日枝神社 (Web)

日枝神社坐落在山寺建筑群的山脚下。人们为致敬天台宗总本山所在的灵山比睿山而修建了山寺，日枝神社也在此期间落成。神社供奉山王权现——山寺所在的宝珠山和比睿山的守护神。权现是佛教中的神灵（如佛陀和菩萨）在神道教中的化身（众神）。日枝神社印证了佛教与神道教在明治时代之前 (1868–1912) 的相互融合。神社前耸立着一棵树龄达千年的巨型银杏树，据说它是由山寺创始人圆仁 (794–864) 亲手种下。这棵树现在是天然纪念物。

日枝神社最出名的活动大概是每年5 月 17 日举行的山王祭。节日当天，伴随着传统音乐，人们将三顶神舆（可移动的神龛）从日枝神社抬到寺庙群下方的街道上。在返回日枝神社前，抬神舆者会快速穿过街道，让活动达到高潮。与大多数活动不同，雨水对山王祭而言是一个吉兆。传说只要有三滴水落在神舆上，来年定会五谷丰登。山王祭已被指定为无形文化财产。

番号 NO：004-027

<繁体字>

日枝神社 (Web)

日枝神社坐落在山寺建築群的山腳下。人們為致敬比睿山（天台宗總本山）而建立了山寺，日枝神社便是在此時期建立。神社內供奉山王權現，即山寺所在寶珠山和比睿山的守護神，權現是佛教中神靈（如佛陀和菩薩）在神道教中的化身（神祇）。供奉此神的日枝神社正好印證在明治時代（西元 1868 - 1912）以前，佛教與神道教融合的情形。神社前面聳立著一棵樹齡千年的巨大銀杏樹，據說由建立山寺的圓仁和尚（西元 794 - 864）親手種下，如今此樹已被列為天然紀念物。

說到日枝神社，最廣為人知的莫過於每年 5 月 17 日舉行的山王祭，並已獲指定為日本的無形文化財。祭典當天，人們會伴隨著傳統音樂，抬著三座「神輿」（可移動的神龕）從日枝神社到位於寺院群下方的街道。活動的最高潮是神輿轎手快速穿過街道，然後返回日枝神社。與大多數的活動不同，雨水對山王祭而言是吉兆，傳說只要有三滴水落在神輿上，來年必定會豐收。

番号 NO：004-027

＜日本語仮訳＞
日枝神社（ウェブ）

日枝神社は、山腹の寺の境内のふもとにある神社です。日枝神社は、比叡山の天台宗総本山、比叡山に敬意を表して山寺が建立された際に建てられました。日枝神社は、山寺の比叡山と宝珠山の守護神である山王権現を祀っています。権現とは、神道神の姿で表される仏教神（仏陀や菩薩）の顕現で、これを祀る神社は、明治時代（1868～1912 年）以前に存在していた神道と仏教の融合を思い出させるものです。神社の建物の手前には、山寺を建立した円仁（794 年～864 年）の手で植えられたとされる、樹齢1000 年の巨大な銀杏の木がそびえ立っています。この木は、天然記念物です。

日枝神社はおそらく、5 月 17 日に開催される山王祭で最も良く知られており、この祭りは、市の無形文化財に指定されています。山王祭では、3 基の神輿が、伝統的な音楽に合わせて、日枝神社から寺下の道路へと運ばれます。神輿の担ぎ手が日枝神社に戻る前に通りを素早く走り抜け、祭りはクライマックスを迎えます。多くの催し物と違い、山王祭では雨が吉兆とされています。伝説によると、たった 3 滴でも雨が神輿にあたれば、翌年は豊作になるそうです。